

倉敷市真備町箭田の井原線吉備真備駅前広場を会場に20日、「竹&ふれあいフェスタ」(箭田地区まちづくり推進協議会などで組織する実行委主催)が開かれ、同協議会と交流している福井市の住民グループによる物産コーナーが初出店され、家族連れらでにぎわった。

ステージでは、小学生と老人福祉施設の利用者が一緒に「大人も子どももみんな仲良く」というまちづくり宣言で幕開け。地元

真備でフェスタ 交流の福井から出店

園児や小中学生らによる踊り、吹奏楽演奏などが披露された。

地元住民グループなどによる食べ物や手芸品の出店とともに、箭田地区まちづくり推進協と10年越しの交流を続けている福井市日之出地区から、ひのでまちづくり協議会員ら8人が、羽二重餅や水ようかん、サバへしこなど福井名産品の試食と販売をした。

同協議会の山田年克会長(53)は「幅広い年齢層の参加で盛り上がっているフェスタで楽しませてもらった。今後も力を合わせて両地域を活性化していきたい」と話していた。(山崎隆夫)



真備町箭田地区のフェスタに出店した福井市の物産コーナー